

# 報 文

UDC 016.12(52)

## 日本学術会議の近況について<sup>1)</sup>

正員 工学博士 石原藤次郎\*

### ON THE PRESENT STATE OF THE SCIENCE COUNCIL OF JAPAN.

(JSCE Aug. 1951)

Dr. Eng. Tōjiro Ishihara, C. E. Member.

**Synopsis** The writer, as one of the members of the Science Council of Japan, describes briefly its organizations, objects and functions as they are, and also describes the current important subjects treated in the Council to promote the science and technology in Japan.

昨年12月の第2期日本学術会議の選挙におきまして、第5部定員30名のうちで、わが土木学会会員が8名も当選されましたことは、工学部門における土木関係の位置をいよいよ重からしめるものとして、誠に心強く御同慶の至りであります。会員には吉田博士を始め多くの先輩がおられますのに、最も若輩微力の私がこの席上で学術会議の近況をお話するのは如何かと思いましたが、大阪で開かれた講演会だから関西の君がやれとの委員諸氏のお言葉に甘えて、あつかましくもここに立ちました次第、この点はあしからず御許しを願います。なお、私如きものが今日名誉ある学術会議会員であり得ますことに対し、御礼を申し上げねばなりません。全く本学会の御推薦と会員各位の絶大な御支援の賜物でありまして、この機会に会長始め会員諸賢に心から謝意を表しますとともに、一層の御指導と御鞭撻のほどを御願ひ致します。

日本学術会議の使命目的につきましても、昨年の総会の席上で田中博士が詳しく御話をされましたので、再び繰返えしませんが、わが国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上を図り科学を行政産業及び国民生活に反映滲透せしめるという重要な責務を持つており、総会の決議によつて運営活動する審議機関であります。一方、これに伴つて内閣に設置されま

したSTAC(科学技術行政協議会, Scientific Technological Administration<sup>1)</sup> Committee)は学術会議と協力して、科学技術行政の連絡調整を行う実行機関であり、首相を会長、国務大臣を副会長とし、委員26名のうち半数の13名は学術会議の推薦した学識経験者でありまして、現在工学関係では八木秀次氏と兼重寛九郎氏とが委員となつておられます。政府はSTACを通じ学術会議に諮問することが出来、また学術会議が政府に行つた勧告及び答申は一応STACの議を経て閣議に提案され、具体的な行政措置が講じられることになつています。こうしたわけでありまして、この両者はこの方面における国の最高機関として、車の両輪の如く互に協力して、技術国策の遂行に寄与すべきものであります。

学術会議は前述の如く総会の決議によつて審議機関としての責務を果していますが、その組織としては、現在運営審議会、7つの部会、15の常置委員会及び9つの臨時委員会があり、さらに海外の学会との連絡を図るための32の研究連絡委員会や中央、地方の選挙管理会があります。われわれ会員はこれらの幾つかの委員として度々会合に出席し、論議を重ねており、それらの結果が総会にかけられて正式の決議となるわけでありまして、本年1月以来、私はいわゆる1年生会員として右往左往するのみで、何ほどのお役にも立つておりませんが、常に重責を荷つた会員としての自覚と土木学会の代表者の1人としての自覚のもとに所定

<sup>1)</sup> 昭和26.5.26.土木学会第7回年次学術講演会にて講演

\* 日本学術会議会員、京都大学教授

の会合には必ず出席して、必要な意見の発表と慎重な表決権の行使を行つて参りました。その間、学術会議の現状と将来とについて、各位に報告し、御見解を伺いまた御支援を仰ぐべき多くの問題を体験しましたのでこゝに主要なものを若干御話致したいと思います。

(1) 科学技術予算について 米国では千秋博士の視察報告<sup>2)</sup>にもありますように、科学技術の振興政策についてスチールマン氏を中心として積極的な努力が払われております。1951年度の予算では、政府の振興予算は14億弗で収入の3.6%に相当し、産業界の8億弗、大学その他の2億弗を加えますと、合計24億弗になるようであります。わが国の経済を急速に復興せしめるために科学技術の振興が大いに大切であることに鑑み、学術会議は政府に対し昨年6月に、科学技術振興予算の増額、同研究機関の整備拡充その他を勧告しました。大蔵省としても科学技術予算のSTACでのとりまとめに賛成でありましたので、結局STACに科学技術予算部会が設置され、審議の結果を大蔵省に申しましたが、結局認められましたものは、表一1のように総額79.61億円であります。昨年度に比し相当の増額で、政府が科学技術の振興にかなりの関心を寄せられたことがわかりますが、明年度は一層の増額を期したいと思います。

特に学術会議としては、文部省の依頼を受けてその予算編成に協力し、全国の科学技術研究者の切なる要望を反映せしめることに努めました。政府は国立大学の教官研究費の増額や過去における科学研究費などの総花的配分などを理由として、学校関係者の関心のまとである補助金交付金を、表一2の如く昨年度と同

表一1 科学技術振興予算年度別一覧表 (単位 100万円)

	24年度	25年度	26年度
官庁研究機関	2 705	3 155	3 761
大学附置研究所	432	579	1 049
講座研究費	611	1 186	2 017
補助金並びに委託費	492	686	1 134
合計 (a)	4 240	5 606	7 961
一般会計予算 (b)	741 000	664 500	657 400
a/b × 100	0.57	0.84	1.21

表一2 科学技術関係補助金並びに委託費予算 (単位 100万円, 4捨5入)

省別	文部	運輸	厚生	農林	労働、 安本	建設	電通	通産	総計
26年度要求額	1 986	399	209	70	122	32	5	1 220	4 039
26年度予算	500	50	38	54	15	15	0	462	1 134
25年度予算	500	0	16	13	13	0	0	145	686

2) 千秋邦夫; 『米国に於ける科学技術振興方策』土木学会誌, 昭. 26.4.

じく5億円におさえたのであります。この点は甚だ遺憾でありまして、明年度は少くもこの2倍程度と致したく、本年度の配分実績を検討し増額要求の具体的資料をととのえております。なおこの5億円の内訳は、学術会議の答申に基いて表一3.4のように定められましたが、科学研究費に対しては、総合研究の重視、重点的配分、1件5万円以上という基本配分方針とともに、前年度実績、申請の金額及び課題数並びに研究実動人員数等を考慮し慎重に各部への配分比率を決定しました。実際の各個人への配分は、各学会の推薦を経て学術会議が選定した委員よりなる文部省科学研究費等分科審議会が上記の配分方針に従つて実施しました。土木関係は本年は吉田、大坪両会員が委員となられ、土木学会の協力を得てその衝に当たつていただきましたが、第5部工学関係の実績は表一5のようであります。研究者各位の要求に対し、課題数で1/4程度、金額で1/10程度を配分出来たに過ぎず、非常に御迷惑をかけたことと思ひますが、明年度は一層の努力をして総金額及び第5部への配分の増加をはかりたいと思つております。

また科学試験研究費については、本年は文部省関係の基礎的段階にある応用研究に配分することになり、上記の分科審議会の専門部会で実際の配分に当つたの

表一3 文部省関係交付金補助金内訳 (単位 100万円)

項目	26年度 要求額	26年度 予算	25年度 予算
科学研究費交付金	1 100	311	276
科学試験研究費補助金	390	110	125
科学研究助成補助金	36	9	9
研究成果刊行費補助金	150	30	25
民間研究機関助成金	150	40	40
研究用輸入機械購入費補助金	160	—	25
合計	1 986	500	500

表一4 26年度科学研究費等内訳(単位 100万円)

科学研究費	各個研究		総合研究	
	重要研究器材購入費*	保留金		
科学試験研究費	自然科学	95	165	
	社会科学	15	88	311
			55	
			3	

\* 国内購入: 自然科学 24, 人文科学 6; 輸入機械 25.

表一5 26年度科学研究費交付金審査結果 (第5部関係) (単位 1 000円)

	研究課題数		研究経費		1課題当り研究費	
	要求	採択率(%)	全体の要求	採択課題の要求	査定額	要求査定率(%)
個人研究	3 459	872	25.3454	456	135 455 51 440 131	59 44.9
総合研究	177	36	20.3164	272	47 439 12 620 928 351	37.8

であります。土木関係は吉田、大坪両会員と松村孫治博士を煩しました。最後に文部省以外の各省応用研究費 6.34 億円は、表一 2 の如く昨年度に比し大幅の増額で、民間研究者や学校関係者などからの補助申請を受付けておりますが、われわれに關係の深い建設省の分は 6 月 10 日締切と思ひます。学術會議としましては、その推薦する専門學者の意見を徴し各省の配分審議機構で有効適切な審査配分が行われるべきことその他を政府に勧告したのでありますが、大体その線に沿つて各省応用研究費の配分が実施されているようであります。

(2) 科學者の生活身分などについて 科學技術の振興のために如何に予算措置などをとりましても、さらに大きい問題はそれにたずさわる人にあります。現在のよな窮乏の状態では、とても本来の研究に没頭できそうもなく、日本の科學技術の將來のために甚だ憂慮すべきものがあります。学術會議がさきに行いました科學者の生活実態の調査結果も、この点を歴然と裏書きしておりますので、われわれは科學者の生活擁護に関する声明書を各方面に配布して強く世論に訴えたのでありますが、さらに一般の啓蒙運動と調査を続けて、早急に具體的措置を政府に要求するつもりであります。また研究公務員の特別な法的措置や発明の取扱いについても必要な勧告を政府に行つて来ましたが、既に STAC を中心として、科學技術の振興に寄与すべき措置がとられつゝあります。なお、学術會議が特に関心をもつて努力して来ましたが、學問思想の自由尊重ということであり、その主旨尊重と周知徹底につきまちは不斷の努力をつづけ、紀念講演会を開くとか、また政府、国会と度々連絡をとり、善処しております。昭和 25 年 4 月 28 日に戦争のための科學を行わないという声明を發しておりますが、これは平和と國民の福祉のために科學技術の振興に努力して来た学術會議の態度を明らかにしたものであり、この態度は現在も勿論堅持されておりますことを、特に申し上げておきたいと思ひます。

(3) 科學技術の國際的交流について 十数年をわたつた戦争及び戦後の混乱のために、日本の科學技術が外国に比べて甚だしく立遅れの状態にありますことは、各位のよく御承知の通りであります。学術會議ではかねてこの点に関する対策を慎重に協議し、外国技術の導入、科學機械の輸入、科學者技術者の海外派遣國際学術會議への出席などについて、政府に勧告し

又諮問に答えて参つたのでありますが、現在は既に STAC に必要な部會が設けられ、着々と具體的措置がとられております。特に國際学術會議への代表者派遣は、学術會議の運営審議會において關係の深い研究連絡委員會または部の推薦に基づいて決定することになつており、本年度は約 50 名が派遣される見込であります。なお、フルブライト法に基づく米國との學者學生の交換が速かに実施されるよう政府に申入れてありますが、最近の新聞ではその実現が可能となる様子で科學技術の國際的交流に資するところが少なくないと期待されます。

#### (4) 科學技術研究体制及び科學政策について

この問題は学術會議がその発足当初より特に努力して参つたものであり、研究機關の整備充実及び連絡調整、研究成果の發表、出版及び実用化、學術情報所の設置、學術資料の整備保存並びに科學知識の普及促進その他多くの事項について、政府に必要な勧告を行うとともに種々の答申を行いました。STAC を通じ着々と実現しつつあるものが少くありません。ことにわれわれに深い關係をもつ防災につきまちは、昨年 3 月政府に対し防災に関する強力な総合調整機關の設置方を建議し、それに依つて STAC に防災部會が設けられたのでありますが、現在さらにその実現について慎重な協議を続けており、近く改めて政府に強く働きかけることになつております。しかしよく考えてみますと、従来取扱つて来ましたが諸問題は、現行の研究体制を是認して、その部分的な不便や不合理の是正に努めたという憾みがあるようであります。学術會議としてはさらに高い理想と熱情をもつて、日本の國家的規模における科學技術研究体制及び科學政策を真剣に討議し、学術會議の眞の使命目的を達成しなければなりません。この点について、われわれは一層の努力を続けたいと思つております。

最後に申し上げたいことは、新たに中央及び地方の選挙管理會が発足したことであります。次の選挙のために選挙法規の改正その他の準備を行い、各位の御意見を反映して、立派な選挙を行うように努力されるはずであります。また今回第 5 部關係の學士院會員が 2 名増員されることになり、學會及び學術機關からその候補者の推薦を 6 月 30 日までにお願することになつております。土木學會關係からさらに名譽ある學士院會員が出られますことを期待してこの講演を終りたいと思ひます。(昭. 26. 6. 13)